

平成28（2016）年度入学者

学科教育科目

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C	科目ナンバリング	C1021S-0003
担当者氏名	田中 敬子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

2クラス合同の授業ですが、隔週で集団授業⇄ピアノ個人レッスンとクラスが入れ替わります。集団授業では伴奏付け、律動のピアノ、即興演奏、初見演奏の訓練などをします。ピアノ個人レッスンでは、実習や就職試験に備えて、演奏力の向上を目指すとともに、レパートリーを増やします。

《テキスト》

【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材
 【集団授業】適宜プリントを配布

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて配布します。

《授業の到達目標》

- マーチやスキップなどのリズム曲を弾くことができる。
- 電子ピアノの機能を生かして、様々な情景や動物等のイメージに合った伴奏を考えたり、弾いたりすることができる。
- 実習や就職試験に備え、自信をもってピアノ演奏や弾き歌いをすることができる。
- ピアノ曲、弾き歌いのレパートリーを増やす。

《授業時間外学習》

各自、毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

実技試験100%（ピアノグレード試験・集団授業内での小試験）
 試験結果はコメントを付して返却する。

《備考》

保育者として相応しいマナーを身に付けるため、授業を受ける前、受けた後の挨拶を徹底します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
3	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
4	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
5	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】即興演奏 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
6	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
7	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】初見演奏、ソルフエージュ 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
8	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
9	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】コード、伴奏付け 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
10	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
11	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】移調奏、ソルフエージュ② 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
12	クラス1（集団授業） クラス2（ピアノ）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
13	クラス1（ピアノ） クラス2（集団授業）	【集団授業】律動のピアノの復習 【ピアノ】ピアノ曲のレパートリー作り、弾き歌い等
14	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）
15	クラス1（発表） クラス2（発表）	期末発表（ピアノ・弾き歌い等）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D	科目ナンバリング	C1022S-0004
担当者氏名	井上 朋子、田村 幸造、津田 安紀子、藤田 浩恵、小林 未季、佐藤 裕子、森本 満穂子、田中 智子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

3クラスが2つに分かれて、集団授業⇔個人レッスンを90分の中で交互に行います。集団授業では、履修人数を考慮しながら、合唱、ボイスアンサンブル、トーンチャイム、ボディパーカッションなどのアンサンブルを行います。また個人レッスンでは、実習や就職試験に備えてピアノの個人指導を受けます。

《テキスト》

【集団授業】適宜プリントを配布
 【個人レッスン】今までに音楽の授業で使った教材

《参考図書》

その他、資料等は必要に応じて、担当教員から指示・配布します。

《授業の到達目標》

- 様々なアンサンブル活動を通して、表現力を磨くとともに、聴く耳、協調性を育む。
- 様々なアンサンブル活動に関する指導法や指揮法を学び、保育者自身の実践力を高める。
- レパートリーを増やししながら、より表現豊かなピアノ演奏、弾き歌いができるようになる。

《授業時間外学習》

各自毎日十分な練習を行い、完成度を高くして授業を受けるようにすること。

《成績評価の方法》

- 実技試験100%
- ※グレード試験受験票に演奏に対する講評を記入して返却します。

《備考》

学生コンサートの実施により、15回の授業のうち1回を学生コンサートの出席で振り替えることもあります。また、履修者の人数によって、内容、回数を変更する場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明、個人レッスンの担当教員との顔合わせ
2	アンサンブルとピアノ①	【集団授業】トーンチャイムを使って① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
3	アンサンブルとピアノ②	【集団授業】トーンチャイムを使って② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
4	アンサンブルとピアノ③	【集団授業】ミュージックベルを使って 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
5	合唱とピアノ①	【集団授業】合唱練習と指揮法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
6	合唱とピアノ②	【集団授業】合唱練習と指揮法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
7	合唱とピアノ③	【集団授業】合唱練習と指揮法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
8	合唱とピアノ④	【集団授業】合唱練習と合唱指導法① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
9	合唱とピアノ⑤	【集団授業】合唱練習と合唱指導法② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
10	合唱とピアノ⑥	【集団授業】合唱練習と合唱指導法③ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
11	様々なアンサンブル①	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり① 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
12	様々なアンサンブル②	【集団授業】ボイスアンサンブル・ボイスアンサンブルづくり② 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
13	様々なアンサンブル③	【集団授業】アカペラ 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
14	様々なアンサンブル④	【集団授業】ボディパーカッション 【個人レッスン】ピアノ曲と弾き歌い曲のレパートリーづくり
15	まとめ	期末発表(ピアノ・弾き歌い)

《学科教育科目》

科目名	子どもの保健Ⅱ	科目ナンバリング	C1021S-●015
担当者氏名	西村 美穂代		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

乳児保育や子どもの保健で学んだ知識を基礎として、子どもの心とからだの健康問題や事故の特徴とその予防について理解し、保育現場において起こりうる様々な状況に対応するのに必要な技術を習得するとともに実践力を養う。

《テキスト》

『子どもの保健演習』 大西文子編集、中山書店

《参考図書》

子どもの保健 1 A・1 B で使用したテキスト

《授業の到達目標》

1. 発達段階に応じた観察・養護・援助ができるようになる。
2. 子どもが体調不良時や病気になったときの適切な正しい判断と対応ができる。
3. 応急処置や救急時の対応がすばやくできるようになる。
・毎回の講義前に前回の講義内容を復習し、解り難かったことを質問で受け付けて回答する。

《授業時間外学習》

ニュース等で子どもに関する事故を視聴した場合、あなたがその場に出くわしたとして、どのような応急処置を行うか、をイメージしておく。また、実習時、園児の病気や怪我の時にどのような対応・応急手当をされていたかを想起して、講義に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ・講義（実習）に臨む態度（10%）
- ・学期末テスト（90%）

《備考》

実習（講義）に必要な物品を持参しない場合は、実習（講義）を受けることができないため注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	乳幼児の健康観察①	健康な乳幼児の発育・発達・生理機能の想起しながら、保育所・幼稚園での乳幼児の健康観察方法と見落としはならない健康観察を理解する。
2	乳幼児の健康観察②	モデル人形を用いて乳幼児の体温・脈拍・呼吸の測定方法を理解し、実際に学生同士で測定できるように記録を行うことができる。
3	主な乳幼児の症状とその対応	発達段階に応じた発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水を理解しその対応ができるようになり、必要に応じて薬法の当て方や与薬の方法がわかる。
4	乳幼児の養護	発達段階に応じた抱っこのしかた・衣服の着脱・おむつの当て方をモデル人形を使用して実際に行うことができ、注意点がわかる。
5	清潔の指導① — 手洗いを通して —	発達段階に応じたの手洗いの目標と手洗い方法についてわかる。
6	清潔の指導② — 手洗いを通して —	細菌やウイルスを取り除く手洗い方法ができ、園児に指導することができる。
7	清潔の指導 — むし歯予防 —	発達段階に応じたのむし歯になりやすい箇所がわかり、その予防ができ園児に指導することができる。
8	保健活動と保健計画	これまでの演習が活かせるように園での保健活動と保健計画立案について理解できる。
9	子どもを取り巻く事故とその予防①	園で発生した事故を紹介し事故が起こる原因となった問題点をグループで考え、保育士・幼稚園教諭には危機管理のしかかっていることがわかる。
10	子どもを取り巻く事故とその予防②	事故の種類を考えて、幼児が転倒事故を起こしやすいのはなぜか？を理解するためにチャイルドビジョンを装着して体験し「なぜか？」の理由がわかる。
11	応急手当	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオを視聴し、現場での応急手当のしかたがわかり、包帯の巻き方を実際に行う。
12	応急手当を実際に行う	『幼稚園・保育所での応急手当』のビデオに載っていない、応急手当の頭部外傷・骨折の症状と病院に搬送するまでの応急手当がわかる。
13	救急蘇生法	『幼稚園・保育所での心肺蘇生法』のビデオを視聴しながら、現場での発達段階に応じたの心肺蘇生法のしかたがわかる。
14	救急蘇生法を実際に行う。	心肺蘇生法用のモデル人形を用いて、子どもの命を助けることができるように、発達段階に応じた心肺蘇生法ができるようになる。
15	まとめ	1回目～14回目までの学習内容がどこまで理解できているかを確認する。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養 A	科目ナンバリング	C1021S-●016
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

子どもにとっての「食」は心身の健康と発達に重要である。保育士として、子どもの食に関する支援に必要な知識を習得し、実践力につなげていく。
 身体に必要な栄養素の働きと、それを含む食品について学ぶ。乳児期のミルクや離乳食、幼児期の食生活、また食物アレルギーの実際を学び、正しい食指導や支援ができる能力を培う。

《授業の到達目標》

- 食べ物に含まれている栄養素がわかり、その働きが説明できる。
- 子どもたちの成長発達段階に適した望ましい食生活指導ができる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート・課題提出 40% (提出遅れは減点)
- (2) 期末試験 60% (テキスト等の持ち込み不可)
- (3) 受講態度が悪ければ減点

※返却レポートにはコメントを付す

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
 堤ちはる・土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「食べない子が食べてくれる幼児食」
 加藤初枝/井桁容子著 女子栄養大学出版社
 「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」
 厚生労働省 平成23年3月
 「幼児期の保育と食育—保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
 小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社

《授業時間外学習》

授業内容について再確認のために教科書をよく見直しておくこと。また、授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、食事内容を考えるようにすること。

《備考》

学外実習で子どもたちの食環境について学んでください。受講態度での減点は、居眠りや私語、教科書忘れ、授業に関係のないもの（スマホ等）を使用するなどの場合。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康および食生活の現状と課題について理解し、健康的な生活習慣の大切さを説明することができる。
2	子どもの発育・発達と食生活	子どもの発育と栄養状態の評価、食べる機能・消化吸収機能の発達、排せつ機能を理解し、幼児に食べたものがどうなるのかをわかりやすく説明することができる。
3	栄養に関する基本的知識	食品の分類を楽しい教材の使用により理解する。食べ物の働きを幼児にわかりやすく説明する方法を考案できる。
4	栄養に関する基本的知識	糖質、脂質について理解する。
5	栄養に関する基本的知識	たんぱく質、ビタミン、ミネラルについて理解する。水分の機能についても理解する。
6	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	育児用ミルクの種類や特徴、冷凍母乳の取り扱いについて理解する。離乳の必要性、離乳食の進め方について理解する。
7	人工乳栄養と離乳	無菌操作法による調乳の実際について学ぶ。
8	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応について理解する。
9	児童福祉施設における食事と栄養	保育所給食の実際を理解し、保育士としての役割や保育者とのかかわりについて学ぶ。
10	児童福祉施設における食事と栄養	児童福祉施設の食事の役割、栄養管理のあり方、食育のあり方について理解する。
11	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の心身の特徴と食生活の関係を理解する。幼児期の食生活の特徴を理解し、食事支援の方法を学ぶ。
12	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の間食の意義と食生活の問題点について理解し、適切なおやつを考案できる。
13	幼児期の心身の発達と食生活	幼児期の食生活上の問題と健康への対応を理解し、指導法を考案できる。
14	献立作成と調理の基本	食中毒の知識を得る。幼児期に適した調理の基本を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《学科教育科目》

科目名	子どもの食と栄養B	科目ナンバリング	C1022S-●017
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

幼児期は一生の食生活の基本が身につく時であり、「楽しく食べる子ども」に成長できるよう保育士の関わりは重要である。食育の基本と内容について学び、保育の中に食育を取り込む実践力につなげる。

日々の食事バランスについて理解し、献立の考案、また調理保育の計画と模擬実習も行う。さらに体調不良時や障がいのある子どもの食生活について学ぶ。

《授業の到達目標》

- 食事バランスがわかり適切な食事内容を考案することができる。
- 子ども主体で安全に調理する調理保育計画を立てることができる。
- 体調不良時や障がいのある子どもに応じた食事の与え方が判断できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート・課題提出 40% (提出遅れは減点)
- (2) 期末試験 60% (テキスト等の持ち込み不可)
- (3) 受講態度が悪ければ減点

※返却レポートにはコメントを付す

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食育の基本と内容	食育基本法について学ぶ。保育所、幼稚園における食育の目標、内容について理解する。
2	食育の基本と内容	食育のための環境、地域の関係機関との連携、食を通じた保護者への支援について理解する。
3	食育の基本と内容	幼稚園参加指導実習での食育内容をクラスで発表し、他園での食育内容の情報を得る。
4	食事摂取基準と献立作成	食事摂取基準とは何か、食事摂取基準はどのように使用すればよいのかを理解する。各栄養素のとり方を理解できる。
5	食事バランスガイド 家庭における食事と栄養	食事バランスガイドについて学ぶ。自分の食事の現状把握と改善箇所を見つけることができる。また乳児期・幼児期の家庭における食事の役割について理解する。
6	献立作成と調理の基本	調理の基本操作がわかり、調理保育にふさわしい内容を考えることができる。
7	調理保育の模擬実習計画	調理保育で、園児に楽しく安全に調理を実践させるための計画をたてることができる。
8	調理保育の模擬実習	調理保育の計画に基づき模擬実習を行い、理解を深める。
9	妊娠期（胎児期）の食生活	妊娠期の母体の変化、胎児の発育、妊娠期の栄養と食生活について理解する。
10	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活	乳幼児期の咀嚼や嚥下の発達を理解し、援助の仕方を理解する。
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの食事対応を理解する。
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障がいのある子どもへの食事対応を理解する。
13	学童期・思春期の心身の発達と食生活	学童期・思春期の身体特徴、食生活の特徴、問題点を理解する。学校給食の目標、栄養管理、衛生管理、食に関する指導について理解する。
14	生涯発達と食生活	生涯発達と加齢変化をふまえて、成人期・高齢期の食生活上の問題と健康への対応を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容が十分理解でき、その成果が具体的に説明できる。

《テキスト》

「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」
堤ちはる/土井正子著 萌文書林

《参考図書》

「幼児期の保育と食育—保育園・幼稚園での食育のすすめ方」
小川 雄二/須賀 瑞枝著 芽ばえ社
「食を育む—食育実践ガイドブック」師岡 章監修 フレバー館
「食育のアイデア 実践ガイド」吉田 隆子監修 メイト
「子どもと作る食育レシピ12か月」小西律子著 ファイルド本社
「そしゃくと嚥下の発達がわかる本」山崎祥子 芽ばえ社

《授業時間外学習》

授業内容について再確認のために教科書をよく見直しておくこと。また授業で得た知識を実践に活かすためには、普段の自分の食生活を見直し、積極的に料理に取り組むようにすること。

《備考》

受講態度での減点は、居眠りや私語、教科書忘れ、授業に関係のないもの（スマホ等）を使用するなどの場合。

《学科教育科目》

科目名	家庭支援論	科目ナンバリング	C1022S-●018
担当者氏名	太田 颯子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

乳幼児期、子どもが適切な環境の中で育っていく上で家庭の役割は非常に大きい。しかし現代においては少子化や核家族化等に伴い育児不安の高まりや教育力の低下が指摘されている。また、それを支える地域の教育力の低下も指摘されている。そのような背景において近年子育て家庭が機能することを支える役割が保育者に求められている。本講義では近年の背景を踏まえた家庭支援の在り方について学ぶ。

《授業の到達目標》

- 保育者が保育の専門性に基づく固有の理念や方法をもって行う家庭支援の在り方について主体的に考えることができる。
- 保育所や幼稚園、福祉機関での事例を検討しながら実践的に学習することにより、保育現場等で起こりうる諸問題に対し、見通しをもつ力を身につける。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内討論への参加、授業態度20%
- (2) レポート課題20%
- (3) 定期試験60% (テキスト・自筆ノート・配付資料の持ち込み可) ※レポートにはコメントを付して返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子育て家庭の歴史	何故今家庭支援が求められているのか、その理念と構造、意義について歴史的な背景を知ると共に理解する。
2	家族・家庭の現状	現代社会において家族が抱える問題について、その特性を説明することができる。
3	子どもにとっての家族と家庭	発達に応じた家族の役割について乳幼児期における家族の姿やその問題点について理解説明することができる。
4	子育て家庭支援の必要性	乳幼児期における保育者の役割、姿勢について、保育スキルを用いた現場での事例から考察する。
5	子育て支援の法的な制度	子育て支援に関わる法的な制度、保育サービス等について説明することができる。
6	次世代育成支援施策	子育て支援に関する法的な制度の変遷を知り様々な子育て支援について説明することができる。
7	子育て家庭支援の制度と関係機関	子育て支援に携わる様々な機関の役割と福祉サービスについて説明することができる。
8	子育て家庭支援の方法・やり方(DVD視聴)	支援を必要とする家庭が抱える問題について、その特性を理解し説明をすることができる。
9	自己修復力のある家庭への支援	家庭支援の具体的な方法及び保育者の役割について理解する。
10	特別な対応を要する家庭への支援	家庭支援の必要なケースにおける展開過程と評価、終結について理解する。
11	障害のある子どもの家族への支援DVD視聴	障害のある子どもをもつ親への支援の必要性について説明することができる。
12	危機的状況にある家庭への支援	保育現場における相談事例に基づき援助の計画を立てることができる。
13	相談事例の検討①	援助計画の評価方法について理解する。
14	相談事例の検討②	保育現場における相談事例から、他機関との連携を視野に入れた援助の在り方について計画を立てることができる。
15	これからの保育者の専門性 家庭支援とは	これからの保育者に求められるスキル、固有の理念について今後の展望について説明することができる。

《テキスト》

『学び、考え、実践料をつける家庭支援論』
木村志保・津田尚子編、保育出版社、2014

《参考図書》

『よくわかる家庭支援論』橋本真紀・山縣文治編、ミネルヴァ書房
『発達障害の子どもを育てる家族への支援』
柘植雅義・井上雅彦編著、金子書房、2010
『家族心理臨床の実際-保育カウンセリングを中心に』
上里一郎監修・滝口俊子・東山弘子編、ゆまに書房、2008

《授業時間外学習》

- 1) 事前学習としてテキストに目を通し、各章の「現場の声」予習欄に自身の意見や感想を記入しておくこと。
- 2) 復習として授業内容を再確認し、各章の最後のページにある要約と感想を記入しておくこと。不明な点は質問するもしくは調べる等して、必ず解決しておくこと。

《備考》

近年保護者や地域社会への適切な援助が保育者の専門性として求められています。「信頼される保育者とはどのような保育者であるか」という問いをもち授業に臨んでください。

《学科教育科目》

科目名	社会福祉	科目ナンバリング	C1021SG G019
担当者氏名	山東 綾乃		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

社会福祉とは、広く人びとの幸せな社会生活を支援する考え方や具体的な方法、およびそれらを実現するさまざまな施策の総称である。本科目では、社会福祉の歴史や理念、法制度を学ぶことにより、社会福祉の実現にむけた担い手としての理解を深めることを目的とする。また、実践で求められる諸領域（児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉など）の基礎的知識など、保育士に必要な力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

片山義弘・李木明德編著（2014）『新保育ライブラリ 社会福祉』北大路書房

《授業の到達目標》

- (1) 社会福祉の歴史や理念、法制度を理解する。
 - (2) 社会福祉の担い手としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育士に必要な諸領域の基礎的知識を身につける。
- 以上のことを通して、社会福祉にかかわる保育専門職としての価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

具体的に指定はしないが、講義の内容をふまえて、普段から身近な福祉問題に関心を持ち、福祉の視点を育むようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（10%）、小課題（レポートなど）（30%）、筆記試験（60%）により評価する。
なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（社会福祉の価値）	専門職として社会福祉にかかわるという将来像を見据え、多様な価値や視点がある社会福祉を学ぶ意義について理解する。
2	社会福祉の概念と理念	広く人びとの幸福を追求する社会福祉の理念や概念を理解するとともに、それを保障するための制度や支援の仕組みについて学習する。
3	社会福祉の歴史の変遷 ①：社会福祉の歴史	社会福祉が制度として確立されてきた諸外国の歴史と、その根底にある理念や特徴を学び、それが現代の社会福祉制度にどう反映されているのかを理解する。
4	社会福祉の歴史の変遷 ②：日本の社会福祉の歴史	日本における社会福祉の歴史とその社会的背景を学ぶことから、日本固有の社会福祉の特徴や価値を理解する。
5	社会福祉の支援と方法 ①：制度としての社会福祉	マクロな制度としての社会福祉の諸制度・施策やサービスについての基礎的知識を習得するとともに、社会福祉における制度と実践の相補性について理解する。
6	社会福祉の支援と方法 ②：相談援助の技術と方法	ミクロな実践としての社会福祉の支援方法や技術についての基礎的知識を習得するとともに、その根底にある価値や理論について理解する。
7	社会福祉の支援と方法 ③：権利擁護	個人の権利や意思を尊重する権利擁護の諸制度や支援体系に触れながら、社会福祉における利用者保護の仕組みについて学習する。
8	社会保障	社会保障制度の全体像を掴むとともに、とくに医療保障制度、所得保障制度についての知識を習得する。
9	社会福祉の機関と専門職の役割	社会福祉にかかわるさまざまな機関や専門職の役割を理解するとともに、その具体的な実施体系やサービス提供体制について学ぶ。
10	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉に関する歴史や法制度（児童福祉六法など）を学習するとともに、子どもやその家族のかかえる問題を理解する。
11	高齢者福祉	高齢者福祉に関する歴史や法制度（介護保険制度など）を学習するとともに、高齢者に特徴的な問題を理解する。
12	障害者福祉	障害者福祉に関する歴史や法制度（障害者総合支援法など）を学習するとともに、障害者のかかえる問題を理解する。
13	生活困窮者福祉	生活困窮者福祉に関する歴史や法制度（生活保護制度、生活困窮者自立支援制度など）を学習するとともに、生活困窮者に特徴的な問題を理解する。
14	地域福祉	地域社会の福祉課題に対して、公私の社会福祉関係者と協力して解決を目指す地域福祉の考え方を学ぶとともに、その実現にむけた法制度や方法を理解する。
15	学習のまとめ	社会福祉を「学ぶ」意義について振り返り、学習内容が今後の専門職実践のなかでどのように反映されるのかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S-●020
担当者氏名	古川 督		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

相談援助とは、さまざまな福祉課題を抱える人や子どもに対して、相談や制度・サービスの調整をとおして課題解決を図る具体的な方法や技術のことである。本科目では、保育における事例検討やロールプレイなどを通して、相談援助の歴史や理論、方法、技術を学習することで、保育専門職に必要な相談援助の力を養うことを目指す。

《テキスト》

特に指定しない。各回の講義でレジュメを配布する。

《参考図書》

授業内で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- (1) 相談援助の歴史や理論、方法を理解する。
 - (2) 相談援助者としての知識や技術を体得する。
 - (3) 保育場面で求められる相談援助の実践力を身につける
- 以上のことを通して、保育実践における相談援助の価値・知識・技術を習得する。

《授業時間外学習》

授業で指示する課題をこなして授業に参加すること。また、講義の内容をふまえて、普段から子ども・家庭の抱える問題に関心を持ち、そこに存在する福祉課題が何かを考えてみるようにすること。

《成績評価の方法》

平常点（授業参加態度も含む30%）、小課題（レポートなど）（20%）、筆記試験（50%）により評価する。
 なお、レポートや筆記試験に関しては、実施後に評価ポイントの説明や解説を行う。

《備考》

体験・参加型の講義が中心となるので、積極的な態度で受講することを期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション（相談援助の概要）	社会福祉の視点からみる今日的課題を概観し、保育専門職に求められる相談援助とは何かを理解する。
2	相談援助の価値と倫理	相談援助を行う上で基盤となる価値や倫理について、社会福祉士の倫理綱領や行動規範などから理解する。
3	保育と相談援助	保育所や児童福祉施設における今日的な課題をふまえて、保育相談援助の基本的な理念や意義を学ぶ。
4	相談援助の理論と実践 ①：相談援助の実践モデル	相談援助の多様な実践モデルについて、それぞれの視点や特徴を理解するとともに、問題状況や課題に応じた活用方法について学習する。
5	相談援助の理論と実践 ②：相談援助の展開過程	相談援助の展開過程について、各局面（エンゲージメント、アセスメント、プランニング、インターベンション、モニタリング、評価・終結）の目的や機能を理解する。
6	相談援助の方法①：相談援助のアプローチ	相談援助の多様なアプローチについて、それぞれの目的や対象、方法を理解するとともに、問題状況やニーズに応じて適切に活用する実践力を身につける。
7	相談援助の方法②：社会資源の調整・開発	問題解決やニーズの実現にむけて、相談援助者に求められる社会資源の調整（コーディネート）方法や、開発（ソーシャルアクション）方法について学習する。
8	相談援助の方法③：多機関・職種との連携・協働	相談援助にかかわる機関・職種の役割や業務を理解するとともに、支援や援助に必要な機関・職種との連携・協働方法を学習する。
9	相談援助の技術と技法 ①：自己覚知と他者理解	相談援助者としての自己覚知の重要性を理解するとともに、自己覚知を深めるためのスーパービジョンについても学習する。
10	相談援助の技術と技法 ②：面接技法	相談援助における面接技法とコミュニケーションについて、ロールプレイを行いながら体験的に習得する。
11	相談援助の技術と技法 ③：グループワークの方	相談援助や保育実践において活用できるグループワークの原則、またグループ活動を効果的に行うための方法や技術について学習する。
12	相談援助の技術と技法 ④：記録技法	相談援助を進めていくために必要となる記録技法や記録の種類、書き方を習得する。
13	事例研究①：家庭支援における相談援助	保育所や児童養護施設などにおける相談援助の事例をもちいて、家庭支援における相談援助を理解する。
14	事例研究②：発達支援における相談援助	児童発達支援センターや障害児施設などにおける相談援助の事例を用いて、発達支援における相談援助を理解する。
15	学習のまとめ	相談援助の方法や技術を振り返り、学習内容を保育専門職としての実践でどのように活用できるかを考察する。

《学科教育科目》

科目名	相談援助	科目ナンバリング	C1022S-●020
担当者氏名	丸目 満弓		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

相談援助（ソーシャルワーク）活動は、知識はもちろんのこと、援助者にとって必要となる態度や姿勢を身につけることが大切である。本演習では、講義とロールプレイや個人ワーク及びグループワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせ、援助者にとって必要な技能、技術を獲得することをめざす。

《テキスト》

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

《参考図書》

なし

《授業の到達目標》

- ①相談援助の基本的な知識を身につける。
- ②保育場面において相談援助技術がどのように必要とされているか理解できる。
- ③援助者として必要な実践力を身につける。

《授業時間外学習》

新聞に目を通すなどして、保育や福祉分野で何が起きているのかを把握するよう努めてください。そして、日頃から複眼的な視点でものごとを捉える“クセ”をつけて下さい。復習がとても大切です。

《成績評価の方法》

筆記試験 60%
 授業中のレポート・テスト及び課題 40%
 筆記試験を実施した後、解説を行う

《備考》

授業では受け身ではなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉を用いて人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加するようにしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	相談援助とはなにか。また保育領域で、今日相談援助に求められていることはなにかについて、概観する。
2	変化する子育て環境と相談援助	今日の子育て環境について考え、どのような相談援助が必要かについて考える。
3	相談援助の体系	相談援助（ソーシャルワーク）の定義について学ぶ。
4	ソーシャルワークの構成要素	ソーシャルワークの構成要素について学ぶ。
5	対人援助の原則	相談援助における対人援助の原則について学ぶ。
6	ソーシャルワーク実践の方法	ソーシャルワーク実践の方法と技術について学ぶ。
7	事例でみるソーシャルワーク実践	ソーシャルワーク実践の方法を事例を通して考える。
8	ソーシャルワークの構成要素展開過程	ソーシャルワーク実践がどのような展開過程で行われるのかを学ぶ。
9	相談援助の専門職と保育士	ソーシャルワーク実践が行われる機関、施設とその担い手について学ぶ。
10	相談援助の技術や技法と自己覚知	自己覚知とその必要性について実践的に学ぶ。
11	相談援助の価値	相談援助の価値観について演習を通して学ぶ。
12	コミュニケーション面接技法①	コミュニケーション技法としてのノンバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
13	コミュニケーション面接技法②	コミュニケーション技法としてのバーバルコミュニケーションについて学ぶ。
14	コミュニケーション面接技法③	面接技法について学ぶ。
15	学習のまとめ	相談援助についてのまとめを行った後、筆記試験を実施する。筆記試験後に解説を行う。

《学科教育科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	C1021SG G022
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

現代社会が急速に変化するなかでどのような教育が求められるのか、或いは、人間社会において不変的で本質的な教育課題はあるのか、あるとするならそれはどのようなものであるのか、このような事柄を念頭に置いて、教育にかかわる諸問題を多様な側面から考察する。特に、人間の成長や発達にとって必要で不可欠な「教育」の機能や役割、意義について、教育の社会的、歴史的、人間学的観点から理解できるようにしたい。

《授業の到達目標》

教育問題に関わる現代社会の構造的な変化と課題、とりわけ幼児教育や保育分野にある今日的な課題への理解を通して、教育や保育自体がもつ機能について洞察できるようにする。そのためにも、現在の教育的な課題の把握と考察、教育の歴史と理念、教育方法論と学習形態論について学ぶことで、教育の必要性と役割、そしてその意味や意義を理解できるようにする。総じて、人間にとっての教育の意味の把握に努める。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（30%）、および学期末の試験（70%）で評価する。試験内容や評価基準等について講評を行う。

《テキスト》

『新保育士養成講座第2巻 教育原理』新保育士養成講座編纂委員会/編、改訂第2版、2015。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。
プリント資料を配布する。

《授業時間外学習》

教科書、ノート、プリント資料をよく読み、平常のレポートや学期末の試験に臨む。
配布された資料や自分で収集した資料を用いて、レポート課題に対応できるようにする。

《備考》

授業中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。レポートは、必ず、ホッチキス止めをして提出する。出席要件に注意して受講する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的な課題と教育の問題	幼児教育や保育をめぐる昨今の社会的な動向と課題について学び、成長・発達の初期段階にある人間のおかれた社会的な環境とそこにみられる課題について知る。
2	教育の定義	「教育」と「形成」、「教育」と「保育」の機能について理解する。 「教育」と「保育」の語が用いられてきた歴史的経緯について知る。
3	保育の環境や方法における教育の視点	人間にとっての「環境」の意味や環境を通じた教育の意義について学ぶ。また、保育の計画性と教育課程の関連性への理解を通して、意図的教育の意味について考察する。
4	教育の意義と目的	「教育」の文字に込められている教育の意義と役割について学び、歴史にみられる教育の目的について知る。
5	幼児教育および保育の目的・目標・ねらい	幼稚園教育要領や保育指針、その他の教育法規に定められた教育の目的や目標を通して現在の教育や保育に求められている事柄について学ぶ。
6	教育における社会化の問題	人間にとっての文化の意味と役割について学び、社会化の過程と学習の関係について理解する。
7	社会化に関わる諸問題	社会化とアイデンティティの形成、子どもの主体性の形成と教育の関係について考察する。
8	教育の基礎的概念と諸理論(1)	西欧における近代教育の樹立について学ぶ。とくに体系的教育学と子どもの発見について理解する。
9	教育の基礎的概念と諸理論(2)	作業教育の歴史と幼稚園の創設について学ぶ。
10	教育の基礎的概念と諸理論(3)	経験主義的教育理論および感覚訓練による教育法の開発について学ぶ。
11	日本の教育思想と子ども観(1)	江戸時代の教育施設と教育思想について学ぶ。
12	日本の教育思想と子ども観(2)	明治初期の教育理論について学ぶ。
13	日本の教育思想と子ども観(3)	大正期・昭和初期の教育理論について学ぶ。
14	現代教育の課題と人間教育の意義	現代社会のなかの教育問題と不変的な人間教育の意義について、改めて考察する。
15	まとめ	筆記試験を行い、学習内容の理解と考察を深める。

《学科教育科目》

科目名	保育原理B	科目ナンバリング	C1022S-〇024
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

養護と教育の一体性とその意義について考察し、具体的な保育活動のなかでどのようにそれらが展開されるのか、さらに、保育活動と環境、生活と遊びの活動を5つの領域から理解し、そこでの保育者の援助と専門性の向上に向けた取り組みのあり方について教科書やその他の資料、視聴覚教材を通して概説する。

《テキスト》

乙訓稔監修『保育原理－保育士と幼稚園教諭を志す人に－』東信堂2014年初版第1刷

《参考図書》

そのつど紹介する。
適時資料を配布する。

《授業の到達目標》

保育の意義について理解するとともに、保育の領域と子どもの活動である生活と遊びの総合的な活動全体を見通すことができるようにする。また、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された保育の目的や目標、ねらいと内容について改めて理解し、それらと保育活動の関連について考察できるようにしたい。

《授業時間外学習》

教科書やノート、配付資料をよく読み、授業内容の理解が定着するように努める。また、授業内容で紹介された参考図書や資料を読み、理解を広げることができるように努める。

《成績評価の方法》

平常の提出物（30%）および学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。レポート課題の内容や評価基準等について講評を行う。

《備考》

授業中の私語や携帯電話・メール等の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育の意義	保育と教育の概念と社会的意義について理解する。
2	保育所保育と幼稚園教育の基本	養護と教育の一体性、環境の意味と機能について理解する。
3	環境を通して行う保育について	保育活動の事例を通して、人と自然、環境と保育活動のあり方について考察する。 領域「環境」に関する課題
4	表現活動としての保育活動について 1.	幼児期の社会的スキルの育成と表現活動について考察する。 領域「言葉」「人間関係」に関する課題
5	表現活動としての保育活動について 2.	幼児期の育ちにおける造形表現、身体表現、音楽表現の意義について考察する。 領域「表現」に関する課題
6	生活と遊びの活動としての保育活動 1.	乳幼児期にふさわしい生活と生活体験の展開について理解する。 領域「健康」に関する課題、生きる力を培う保育カリキュラム
7	生活と遊びの活動としての保育活動 2.	保育者の援助－生活、運動、安全に対する配慮について考察する。 集団における生活習慣の定着
8	生活と遊びの活動としての保育活動 3.	遊びの本質と意義、幼児期にふさわしい遊びの体験について考察する。 好きな遊びやクラスで取り組む活動
9	特長的な保育実践の理論と展開 1.	フレーベルの幼児教育論について学ぶ。
10	特長的な保育実践の理論と展開 2.	フレーベル幼稚園の保育活動
11	特長的な保育実践の理論と展開 3.	モンテッソーリの幼児教育論について学ぶ。
12	特長的な保育実践の理論と展開 4.	モンテッソーリ「子どもの家」の保育活動
13	特長的な保育実践の理論と展開 5.	シュタイナーの幼児教育論について学ぶ。
14	特長的な保育実践の理論と展開 6.	シュタイナー幼稚園の保育活動
15	まとめ	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育相談支援	科目ナンバリング	C1022S-●026
担当者氏名	高見 スマ子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

本授業では「保育指導」業務を支える原理並びに専門技術を学び、実際の活用方法を学習する。保育相談支援の意義と基本、援助技術、展開過程、評価、実施体制等を学び、保育所等児童福祉施設において実践できるよう学習する。

《テキスト》

別途支持

《参考図書》

授業中適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 保育相談支援の意義と原則、保育相談支援の基本を理解し、主体的に考え、実践できる。
- 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解し、保育所等の児童福祉施設において保護者支援ができる。

《授業時間外学習》

授業前に前回の授業の復習をしておくこと。
社会の動きに敏感になるために新聞を読もう。

《成績評価の方法》

授業中に課すレポート及びテスト（20%） 筆記試験（80%）

《備考》

配布した資料をよく読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育相談支援の意義と基本的視点-1	保育相談支援とは何か、保育士の業務と相談支援
2	保育相談支援の意義と基本的視点-2	保育相談支援の原理、保育相談支援の構造・展開と相談援助との関係
3	保育相談支援の基本-1	保育相談支援の価値と倫理、信頼関係を築く受容と自己決定の尊重
4	保育相談支援の基本-2	子どもの最善の利益の重視、保護者とともに子どもの成長を喜び合う、保護者の養育力の向上に資する支援、他の社会資源との連携・協力
5	保育相談支援の展開-1	保育を基盤とした保育相談支援、保育相談支援の方法と技術
6	保育相談支援の展開-2	保育相談支援の展開過程、保育相談支援の実施体制
7	環境を通じた保育相談支援-1	環境を通じた保育と保育相談支援、保護者との信頼関係を形成する環境、保護者の日常生活を支える環境
8	環境を通じた保育相談支援-2	保護者の子ども理解を促す環境、家庭の暮らしを支える環境、子どもが育つ環境モデルとしての保育所
9	保育所利用児童の保護者への保育相談支援-1	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の場面
10	保育所利用児童の保護者への保育相談支援-2	保育相談支援の手段、保育相談支援の評価、特別な対応を必要とする家庭に対する保育相談支援
11	地域子育て支援における保育相談支援-1	保育所における地域子育て支援における保育相談支援、保育相談支援の実践場面
12	地域子育て支援における保育相談支援-2	保育所における保育相談支援の手段、保育相談支援の評価
13	児童福祉施設における保育相談支援-1	保育相談支援の特性、保育相談支援の実践内容
14	児童福祉施設における保育相談支援-2	保育相談支援の実践事例と解説、保育相談支援の評価
15	まとめ	演習課題に取り組み、学習内容の成果を確認する

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、三宅 美由紀		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 幼稚園教育の基本を知る。
- 幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- 指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《成績評価の方法》

- ・ 実習における評価 70%
- ・ 授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・ 発表内容、模擬保育等への参加と成果 20%
- ・ 質問などはオフィスアワーで個別に対応する。指導案など提出物は具体的に指導内容を入れて返却する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

・ 適宜課題を出します。その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。

・ 事前指導には、絵本歌などの教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (1) 目的と意義
2	幼稚園参加・指導実習について	教育実習の心得 (2) 準備と心得
3	事前指導 (1)	指導案の作成と実際 (3歳児) 子どもの発達を理解する。
4	事前指導 (2)	指導案の作成と実際 (4歳児) 子どもの発達を理解する。
5	事前指導 (3)	指導案の作成と実際 (5歳児) 子どもの発達を理解する。
6	事前指導 (4)	附属加古川幼稚園を参観 (3・4・5歳児) し、視点に沿った記録をとることができる 環境構成・幼児の活動・教師の援助
7	事前指導 (5)	模擬保育の指導案作成と教材研究
8	事前指導 (6)	模擬保育の展開と反省・評価
9	事前指導 (7)	模擬保育の展開と反省・評価
10	事前指導 (8)	模擬保育の展開と反省・評価
11	事前指導 (9)	模擬保育の展開と反省・評価
12	事前指導 (10)	マナー講座を受講し、実習生としてのあり方を学ぶ。
13	事前指導 (11)	幼稚園参加・指導実習について ・ 実習日誌の書き方について (部分実習時)
14	事前指導 (12)	幼稚園参加・指導実習について ・ 実習日誌の書き方について (部分実習時)
15	事前指導 (13)	幼稚園参加・指導実習について ・ 実習日誌の書き方について (全日保育時) I期のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育実習	科目ナンバリング	C1011S◆-027
担当者氏名	金谷 公子、三宅 美由紀		
授業方法	実習	単位・必選	5・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

教育実習の授業は、習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、幼児に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的とする。保育の概要を理解した上で、記録のとり方や指導案の立案、並びに子どもとの接し方などを模擬保育、また附属加古川幼稚園での見学観察実習を通して、体験的な学びをし、保育技術や実践力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

- 実習園の特色や保育方針等を理解し、課題を明確にして実習に臨む。
- 導入、展開、まとめを一連の流れとして立案できる。子どもの姿を予測し配慮事項や留意点を挙げることができるようになり、指導案の準備をして実習に臨む。
- 教育実習Ⅱを振り返り、今後の課題を明確にできる。

《成績評価の方法》

- ・実習における評価 70%
- ・授業中に課す提出物（提出遅れは、減点する）10%
- ・質問、実習後の課題などについてはオフィスアワー、または必要に応じて個別に対応する。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008年
 『幼稚園教育実習』大方美香・滝川光治 他（編）建帛社
 『保育実技』久富陽子（編）萌文書林

《参考図書》

適宜授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

事前指導には、絵本、歌等の教材研究を行い、ファイリングすること。子どもの発達について知識を深め、子ども理解と保育者の援助につなげること。

《備考》

実習スケジュールについては初回オリエンテーション時に配布します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導	教育実習に係る事前指導 1 教育実習の意義と課題①
2	事前指導	教育実習に係る事前指導 2 教育実習の意義と課題②
3	事後指導	教育実習に係る事後指導 1 実習の自己評価
4	事後指導	教育実習に係る事後指導 2 グループ討議による評価及び課題の明確化
5	事後指導 学習のまとめ	教育実習に係る事後指導 3 実習の意義、取り組むべき課題について発表 実習の反省の評価をし、各自の今後の保育へ繋げていく。
6	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
7	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
8	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
9	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
10	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
11	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
12	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
13	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
14	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究
15	学習のまとめ	自身の課題に向けて個別指導・教材研究

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1021S-〇030
担当者氏名	石川 恵美、三宅 美由紀			
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

保育所生活に参加し、習得した教科全体の知識や技能を基礎とし、これらを総合的に実践する能力を養うため、子どもに対する理解を通じて保育の理論と実践の関係を学ぶ。

《テキスト》

特になし。実習の中で自分で探すこと。

《参考図書》

各教科や保育実習指導で使用した教科書、参考文献、配布物等。自分で書き溜めたノート。自分で調べたり、体験したこと。実習先でも紹介してもらうこと。

《授業の到達目標》

既習の教科や保育実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所の役割や機能についてさらに理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。又、指導計画、実践、観察、記録及び自己評価について実際に取り組み理解を深め、保育士としての自己の課題を明確にする。

《授業時間外学習》

実習Ⅰでお世話になった保育園の行事などに積極的に参加し、保育園の役割や機能について理解を深めておくこと。ピアノはしっかりと弾けるように練習し、子どもの前であがらないようにしておくこと。あそび等のレパートリーを増やしておくこと。

《成績評価の方法》

実習園の評価に保育実習指導Ⅱの受講状況を加味したもの(60%)、実習ノート(40%)。なお保育実習Ⅱは保育所実習2週間をクリアしないと単位認定されない。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

実習中アルバイトは禁止。健康管理に気をつけること。欠席等は実習園と学校に連絡すること。保育内容については、実習園の指示に従うこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加指導実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上 詳細は、保育実習実施要項参照 各実習園にて参加指導実習を行う。
2	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
3	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
4	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
5	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
6	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
7	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
8	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
9	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
10	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
11	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
12	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
13	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
14	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。
15	参加指導実習	各実習園にて参加指導実習を行う。

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅱ《保育所実習》		科目ナンバリング	C1021S-0031
担当者氏名	石川 恵美、三宅 美由紀			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期
				2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 			

《授業の概要》

保育所見学観察実習で学んだことを基礎に、保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶ。学内では、保育実習Ⅰの実践、反省を通して、保育についてより具体的に理解を深める。

《テキスト》

「これで安心！指導案の書き方」 北大路書房 2008年
 「実習日誌の書き方」 開 仁志 一藝社 2015年

《参考図書》

『保育所保育指針解説書』フレーベル館 2008年
 その他、適宜講義時に紹介する

《授業の到達目標》

- 保育活動に参加し実践することで、深く保育士の仕事を理解する。
- 保育活動の一部を担当し、保育研究をする事で保育計画作成力を身につける。
- 2年間の実習を通して保育士になることへの方向性を持つ。

《授業時間外学習》

- 実習Ⅰ時のノート・プリントをよく読んでおくこと
- 実習を振り返り、反省と課題を考えておくこと
- 子ども理解（発達など）について復習し、手遊び、読み聞かせなどを実践しておくこと

《成績評価の方法》

事前指導（30%）事後指導（30%）実技（20%）提出物（20%）とする。なお、保育実習Ⅱと同時に成績評価される。実習の取り決めに基づいて出席を原則とする。実習園からの成績表をもとに個別面談を行い、達成度を確認する。

《備考》

服装・態度も実習に適したものであること。欠席の場合は、必ず実習事務室に連絡すること。常に掲示板を確認して行動すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育所参加指導実習の意義と手続き 参加指導実習の心構え
2	参加指導実習に向けて1	見学観察実習の学びと自己反省、参加指導実習の課題について 指導案の書き方について①
3	参加指導実習に向けて2	実習記録の書き方について
4	参加指導実習に向けて3	創作絵本の読み聞かせ 手袋シアター
5	参加指導実習に向けて4	模擬保育①
6	参加指導実習に向けて5	模擬保育②
7	参加指導実習に向けて6	指導案の書き方について②
8	参加指導実習に向けて7	研究保育の教材研究
9	参加指導実習に向けて8	エプロンシアター 絵本リスト
10	参加指導実習を終えて1	実習直前指導
11	参加指導実習を終えて2	実習事後指導① グループディスカッション
12	参加指導実習を終えて3	実習事後指導② グループディスカッション
13	参加指導実習を終えて4	実習報告会①
14	参加指導実習を終えて5	実習報告会②
15	参加指導実習を通して6	保育所実習の振り返り まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C1021S-〇032
担当者氏名	古川 督、足立 法子、小林 洋司		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年（Ⅰ期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いので、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅲ《施設実習》	科目ナンバリング	C1021S-〇032
担当者氏名	古川 督、黒澤 祐介		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能を学ぶ。施設における支援の実際（①受容し、共感する態度②個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子どもの理解③個別支援計画の作成と実践④子どもの家庭への支援と対応⑤多様な専門職との連携⑥地域社会との連携）について学ぶ。保育士の多様な業務と職業倫理を学ぶ。保育士としての自己の課題を明確化する。

《授業の到達目標》

児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。家庭と地域の生活実態に触れて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。保育士としての自己の課題を明確化する。

《成績評価の方法》

施設の評価票に基づく評価（60%）、学習成果の表れである実習ノート（40%）

《テキスト》

「保育実習指導」の授業でのレジュメ

《参考図書》

『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

《授業時間外学習》

万全の体調で実習に臨めるように、実習10日前から検温し、自己管理する。実習中は慣れない環境と緊張とで著しく体力を損なう可能性が高いため、生活のリズムを整えることに尽力し、実習に集中できるように努める。

《備考》

「保育実習指導Ⅲ」においての諸注意に気を配り、必要に応じて実習事務室等への連絡を行うようにする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	参加（実践）型実習	原則 1日8時間×10日間 80時間以上
2	—	「詳細は実習要項参照」
3	—	—
4	—	—
5	—	—
6	—	—
7	—	—
8	—	—
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《学科教育科目》

科目名	保育実習指導Ⅲ《施設実習》		科目ナンバリング	C1021S-〇033
担当者氏名	古川 督、足立 法子、小林 洋司			
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期 2年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識			

《授業の概要》

社会福祉系の科目で学習した内容や「保育実習Ⅰ」での実習体験を生かして、福祉施設（通園施設、入所施設）での子どもや障害児への援助内容や方法について理解を深め、家族を含めた家庭支援のための知識や技術、判断力を養う。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』岡本幹彦・神戸賢次他編、(株)みらい、2013

《参考図書》

『最新保育資料集2013』子どもと保育総合研究所監修、ミネルヴァ書房、2013 そのほか実習施設に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解ができる
- 子どもの状態に応じた適切な関わりができる。
- 保育士の専門性を生かした支援ができる。
- 職業倫理を理解し、実践できる。
- 事後指導における実習の総括と評価ができる。

《授業時間外学習》

実習施設の種別に応じた課題を出しますので、図書館、インターネット等を活用して情報収集につとめ、まとめるようにしてください。

《成績評価の方法》

事前指導：実習計画書の作成（50%）
 事後指導：報告書の作成（50%）
 実習計画書及び報告書について内容・改善点などの説明・解説を行う。

《備考》

実習のとりきめに基づいて出席を原則とします。やむを得ず欠席をする場合は、実習事務室に連絡をしてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	「保育実習Ⅲ」の位置づけ、「保育実習Ⅲ」の目標と内容
2	実習施設の選定 1	対象施設の選定
3	実習施設の選定 2	対象施設の選定及び施設における支援の具体的内容
4	事前指導 1	事前学習の内容、実習施設の理解
5	事前指導 2	保育士と権利保障、実習書類の作成
6	事前指導 3	保育とソーシャルワーク
7	事前指導 4	保育士と地域社会との関係とかかわり
8	事前指導 5	実習計画書の作成
9	事前指導 6	実習当日までにやっておくこと
10	事前指導 7	実習報告書の書き方・提出の方法について
11	事後指導 1	施設保育士と児童福祉施設
12	事後指導 2	「保育実習Ⅲ」の評価のまとめ
13	事後指導 3	実習報告会の準備
14	事後指導 4	実習報告会
15	事後指導 5	保育士資格と進路

科目名	保育の心理学Ⅱ	科目ナンバリング	C1021S-●035
担当者氏名	土井 裕貴		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識		

《授業の概要》

保育者は、子どもたちを心身ともに発達・成長へと導いていかなければならない。子どもたちの発達・成長を促せる、質の高い保育者となるために、子どもたちの心身の発達過程を正しく理解し、その段階に応じて、どういった関わり方が子どもたちの発達を促せるのかを考える。

《授業の到達目標》

○保育実践に関わる心理学の知識を習得すること。○子どもの発達に関わる心理学の基礎的事項を理解すること。○子どもが人をはじめとする周囲の環境との相互作用を通して成長していく過程を理解すること。○人間の生涯発達の過程と、発達における初期経験の重要性を理解すること。○発達障がいについて正しく理解すること。○発達観、子ども観、保育観を見立てられること。

《成績評価の方法》

第15回目に行う試験の評価70%
 授業中に実施する小テストやレポート課題および授業への取り組みの評価30%
 なお、授業内で提出を求める課題についてはコメントを付記して返却する、解説を行うなどのフィードバックを行う。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編
 ※他科目で使用しているもので可

《参考図書》

『保育の心理学Ⅱ』清水益治・無藤隆編著 北大路書房
 2011、『シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ』本郷一夫(編) 建帛社 2011、『発達心理学で読み解く保育エピソード—保育者を目指す学生の学びを通して』若尾 良徳・岡部康成 北樹出版 2010、『エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学』岡本依子ら著 新曜社 2004

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読む、保育に関わる報道に注目する、ボランティア活動などを通して、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得が困難だと心得ておきましょう。単に出席するだけではなく、積極的な授業参加を求めます。現場に必要とされる保育者を志して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもの発達の理解	発達とは何かについて改めて学び、子どもの発達を正確に捉え、その心理面を理解する際の留意点を学ぶ。
2	発達の個人差と評価	発達の個人差に関して、個人間差と個人内差について学ぶとともに、観察技法についても学ぶ。また保育における評価の在り方についても考える。
3	遊びの中にみる1歳児	1歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
4	遊びの中にみる2歳児	2歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
5	遊びの中にみる3歳児	3歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
6	遊びの中にみる4歳児	4歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
7	遊びの中にみる5歳児	5歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
8	遊びの中にみる6歳児	6歳児の遊びの様子を観察、記録し、その分析を行う中で、子どもの発達過程について理解を深める。
9	集団保育と発達	集団保育を通して子どもが発達する過程について理解を深める。
10	仲間との関わりと集団保育の意義	社会性の発達に焦点を当てて学ぶ。集団の構造と機能について学び、集団生活の中での経験の重要性を学ぶ。
11	集団保育の形態と発達	集団保育のさまざまな形態について理解し、子どもの心の発達について理解を深める。
12	TEACCHプログラムによる支援方法	TEACCHプログラムの概要を理解し、支援方法について理解を深める。
13	応用行動分析による問題行動の支援方法	応用行動分析(ABA)の概要を理解し、子どもの問題行動への支援方法について理解を深める。
14	就学支援	幼児教育と初等教育との継続性、さらには就業など生涯にわたる支援の継続の重要性について理解する。
15	学習のまとめ	第1回目から第14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験を行う。試験の解説により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	C1021S◆-036
担当者氏名	松田 信樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

人は生まれてからたくさんのことを身につけて発達していく。それを可能にするのが広い意味での教育である。人の人としての発達を支える教育という営みについて、心理学の観点から考える。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習の過程について理解すること。また、発達障がいをはじめとする障がいを持つ子どもの発達と学習の過程について理解すること。

《成績評価の方法》

筆記試験の評価100%。
質問等は授業終了後やオフィスアワー等で受け付けて対応する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。

《参考図書》

『やさしい教育心理学[第3版]』鎌原雅彦・竹網誠一郎(著) 有斐閣 2012
『絶対役立つ教育心理学 ー実践の理論、理論を実践ー』藤田哲也(編著) ミネルヴァ書房 2007
『よくわかる発達障害 第2版』小野次郎・上野一彦・藤田継道(編) ミネルヴァ書房 2010

《授業時間外学習》

参考図書として挙げた文献を読むなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深めてもらいたい。

《備考》

授業に出席するだけでは単位取得は困難だと心得ておこう。質の高い保育者になることを真に志す学生の受講を期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育心理学への導入	教育心理学では何を学ぶのか、そして教育心理学を学ぶ意義について説明する。
2	学習の心理学～その1	学習を定義づけたうえで、学習を成立させるメカニズムについて学ぶ。
3	学習の心理学～その2	子どもを褒める、そして子どもを叱るということについて、学習の心理学の視点から考える。
4	学習への動機づけ～その1	動機づけについて、内発的動機づけをキーワードにして学ぶ。
5	学習への動機づけ～その2	学習意欲を高める、あるいは逆に低下させてしまう諸条件について学び、学習意欲を高める方策を探る。
6	記憶の心理学～その1	忘却とそのメカニズム、短期記憶と長期記憶について簡単な記憶実験を交えながら学ぶ。
7	記憶の心理学～その2	効果的な記憶の仕方と子ども時代の記憶の発達について学ぶ。
8	学習の方法と評価	学習指導の諸形態と学習評価のあり方について学ぶ。
9	学級集団の理解	リーダーシップと集団への同調現象について学ぶ。
10	教師のメンタルヘルス	ストレスとバーンアウトについて学び、教師の精神的健康を守るための方策について考える。
11	発達の基礎の理解	発達の規定因としての遺伝要因と環境要因との相互作用について学ぶ。
12	子ども時代の発達の理解～その1	子ども時代の人間関係の発達について学ぶ。
13	子ども時代の発達の理解～その2	子ども時代の知的能力の発達について学ぶ。
14	障がいをかかえる子どもの発達と学習	発達障がいをはじめとする障がいをもつ子どもたちの発達と学習の過程について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の理解度を測定するために筆記試験を行う。

《学科教育科目》

科目名	青年心理学	科目ナンバリング	C1022S-0038
担当者氏名	杉田 律子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

子どもから大人への過渡期である青年期の心理の特性を、自我、自己意識の発達や自己形成という観点から理解するとともに、家庭に潜む心の問題、学校や社会への不適応、就職など社会参加を目前にした情緒不安など、青年期に特有な心理的な諸問題について理解し、青年の自立と成長の支援とは何かについて考える。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回、授業時にプリントを配布する。プリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・青年期のさまざまな問題行動の背景にある心理を理解できるようになる。
- ・施設保育者として必要な、青年期の人々に特有な心理的な諸問題について理解できる。
- ・青年期の人々の悩みや問題に向き合うことができる
- ・青年期の人々の悩みや問題について、相談に乗ったり解決への支援ができる。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献や新聞などを自ら進んで読み、授業内容について理解を深めてもらいたい。また、ボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に持ってください。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート課題の評価 70%
 授業への取り組みの評価 30%
 レポート課題については、全体的な講評を行う。

《備考》

グループで取り組む課題を出すので能動的に学習に取り組むこと。また、グループ内で協働する力を身につけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	青年心理学への導入	授業の進め方の概要。保育者が青年心理学を学ぶ意義について 青年期の特徴について 青年期の課題について
2	青年期のとらえ方 青年心理学の研究法	青年期の特徴について理解を深める（生物学的現象 文化的現象 通過儀式） 発達心理学の研究手法について理解を深める（実験法 テスト法 事例研究法）
3	青年期前期の心的特性①	青年期前期の心的特性について理解を深める 自我の覚醒 自我の構造と機能 自己概念の形成 内面化
4	青年期前期の心的特性②	青年期前期の心的特性について理解を深める 不安定性 第二性徴 思春期発育 生活空間 共有世界と個有世界
5	1～4講の学習のまとめ	1～4講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 発達心理学の基礎的事項 自我の発達 青年期の特徴 青年前期の特徴
6	青年期中期の心的特性①	青年期中期の心的特性について理解を深める 自我の高揚 理想主義 価値観 第2の反抗 異議申し立て 英雄的反抗 虚勢的反抗
7	青年期中期の心的特性②	青年期中期の心的特性について理解を深める 形式的操作期 理性と感情 少年の病理 反社会的行動 非社会的行動 向社会的行動
8	青年期後期の心的特性①	青年期後期の心的特性について理解を深める 自我の拡充 現実との妥協 再衛星化 リーウェイ現象
9	青年期後期の心的特性②	青年期後期の心的特性について理解を深める 生活設計の開始 職業観 キャリア意識 キャリア設計 結婚観
10	6～9講の学習のまとめ	6～9講で学んだことをレポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 自我発達 キャリア形成 青年期の病理
11	青年期後期の心的特性③	青年期後期の心的特性について理解を深める 社会的人格の形成 エリクソンの斬成説
12	青年期後期の心的特性④	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 モラトリアム
13	青年期後期の心的特性⑤	青年期後期の心的特性について理解を深める アイデンティティ（自我同一性）に関する心理検査を通して自己分析
14	青年から大人へ	青年期から成人期への移行におけるトピックスについて理解を深める 結婚 家族の形成 社会的責任 人格の変容
15	11～14講の学習のまとめ	11～14講で学レポートにまとめ（60分）、課題を解説（30分）し、理解を深める。 アイデンティティ（自我同一性）の確立と拡散 自己分析

《学科教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	C1021S◆-040
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

教育の「制度」（公教育制度、教育法制など）と「制度的実態」（教育行政、学校経営など）についての体系的な知識を獲得するとともに、昨今の教育改革の動向を検討しながら、現代日本における教育の課題を、みずからの問題として論理的に考えていく力が身につくよう、授業を進める。

《テキスト》

『現代教育の制度と行政』河野和清編著、福村出版、2008

《参考図書》

『図解・表解 教育法規 新訂版』坂田仰、河内祥子、黒川雅子、教育開発研究所、2012

《授業の到達目標》

1. 現代日本の公教育制度、教育法制などについての主要な知識を獲得する。
2. 現代日本の教育がどのように制度的に運用されているかについて、その実態を理解する。
3. 現代日本における教育改革の動向を検討し、今後の課題について考える力を養う。

《授業時間外学習》

授業中、指示する。

《成績評価の方法》

1. 筆記試験の結果で100%評価する。
 2. 筆記試験では、知識の定着度50%、文章作成能力（論理的思考力）50%の配点で、評価する。
- ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。
 ※筆記試験後、試験問題についての解説を行う。

《備考》

教育改革の動向については、日頃から関心を持つよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育制度とは何か	①教育制度、②公教育、公教育の歴史類型、③学校制度、学校制度の類型
2	近代以降の日本教育制度（1）	昭和（戦前）期までの公教育制度、教育行政
3	近代以降の日本教育制度（2）	昭和（戦後）期の公教育制度、教育行政
4	現代日本の教育制度（1）	公教育制度（現状と課題）
5	現代日本の教育制度（2）	教育法制（現状と課題）
6	現代日本の教育制度（3）	教育行政（現状と課題）
7	現代日本の教育制度（4）	学校経営（現状と課題）
8	現代日本の教育制度（5）	保育制度（1）（現状と課題）
9	現代日本の教育制度（6）	保育制度（2）（現状と課題）
10	現代日本の教育制度（7）	教職員人事（現状と課題）
11	現代日本の教育制度（8）	教員養成・研修（現状と課題）
12	現代日本の教育改革（1）	教育改革の動向
13	現代日本の教育改革（2）	教育改革における今後の課題
14	海外主要国の学校制度	アメリカ合衆国、イギリス、フランス、ドイツ等の学校制度
15	まとめ	学修内容の再確認

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C1021S◆●044
担当者氏名	小林 孝子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

「健康」は、日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考える。

《テキスト》

『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』

《参考図書》

資料を配布する。
必要に応じて、参考図書を紹介する。

《授業の到達目標》

- ・領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
- ・乳幼児の心身の発育・発達について基礎的知識を身につける。
- ・子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を探る。
- ・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
- ・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《授業時間外学習》

- ・授業内容を復習し再確認すること。
- ・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース、記事等を記録しておくこと。
- ・自分自身の健康管理に努めること。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）・提出物（20%）・授業態度（10%）で評価する。

- ・わからないところはオフィスアワー等で質問を受け付ける
- ・小テストやレポートにコメントを付して返却する。
- ・授業の到達目標に対しては、全体に講評を行う。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・制作用具は必ず用意すること（ハサミ、のり、テープ他）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 健康の定義について	・講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 ・WHOの健康の定義やその他の考え方から、[健康]について考えてみる。
2	領域「健康」について	・保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている[健康]のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	・乳幼児期の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	・運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	・生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	・母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	・乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の社会性の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
8	子どもの心と健康	・乳幼児のパーソナリティの発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。 ・乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を考えてみる。
9	子どもの健康をめぐる問題	・子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を探る。 ・食育について理解を深める。
10	子どもの活動と教材と遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。
11	子どもの活動と教材、遊具	・いろいろな教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を知る。 ・安全で楽しい園庭を考える。
12	子どもの活動と指導	・いろいろな教材、遊具の遊びと指導を理解する。 ・安全で楽しい園庭を考える。
13	安全の指導	・子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識する。 ・安全の指導のすすめ方を理解する。・家庭への健康・保健便りを考える。
14	安全の指導	・安全管理について認識を深める。 ・家庭への健康・保健便りを考える
15	まとめ	・授業のふりかえり及び理解度の確認。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康	科目ナンバリング	C1021S◆●044
担当者氏名	山村 けい子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

「健康」は日々の保育の大半を占める領域であり、子どもの生活そのものである。乳幼児の健康を取り巻く諸問題を考え、対等に位置づけられた保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「健康」について理解を深める。そして、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、自主的に指導の在り方を考えることを目的とする。

《授業の到達目標》

領域「健康」の「ねらい」「内容」を理解する。
 乳幼児の心身の発育・発達について基礎知識を理解する。
 子どもの健康をめぐる問題を知り、その支援策を説明できる。
 乳幼児の遊びを知り、製作や身体を使った遊びをすることが主体的にできる。
 乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、「指導法」を説明することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（70％）提出物（20％）授業態度（10％）
 レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

厚生労働省編 『保育所保育指針解説書』文部科学省編 『幼稚園教育要領解説』 厚生労働省、文部科学省、内閣府編 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

《参考図書》

清水 将之、相楽 真樹子他編集（2015）
 『〈ねらい〉と〈内容〉から学ぶ保育内容・領域 健康』わかば社
 適宜資料を配布する。適宜授業中に参考図書を紹介する。

《授業時間外学習》

授業内容を復習し、再確認すること。
 子どもに関するニュース・記事・「健康」に関するニュース、記事等を記録しておく。
 自分自身の健康管理に努めること。

《備考》

授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。
 提出物は期限厳守・製作用具等は必ず用意すること（ハサミ、のり、テープ等）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 「健康」の定義について	講義の概要、授業のすすめ方、履修上の諸注意。 WHOの健康の定義やその他の考え方から、「健康」について理解する。
2	領域「健康」について	保育所保育指針解説書、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説に示されている「健康」のねらい・内容を理解する。
3	子どものからだと健康	乳幼児の体格の発達や生理機能の特徴を理解する。
4	子どものからだと健康	運動能力の発達や「動き」の獲得の過程を理解する。
5	子どものからだと健康	生活習慣の形成を、身体諸機能の発達の面から理解する。
6	子どもの心と健康	母子相互作用が、心の健康にとっていかに重要かを理解する。
7	子どもの心と健康	乳幼児の情緒の発達を理解し、さらに運動面との関連を説理解する。
8	子どもの心と健康	乳幼児のパーソナリティの発達とさらに運動面との関連を理解する。 乳幼児の知的能力の発達を理解し、さらに運動面との関連を説明できる。
9	子どもの健康をめぐる問題	子どもの健康をめぐる諸問題を認識し、その対応を理解する。 食育について理解をする。
10	子どもの活動と教材と遊具	色々な教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を説明することができる。
11	子どもの活動と教材と遊具	色々な教材、遊具の遊びを考え工夫し、その効果を説明することができる。 安全で楽しい所（園）庭を説明することができる。
12	子どもの活動と指導	色々な教材、遊具の遊びと指導を理解する。 安全で楽しい所（園）庭を説明することができる。
13	安全の指導	子どもの事故の実態を知り、安全教育の重要性を認識し、理解をする。 安全の指導のすすめ方を理解する。家庭への健康・保健便りを説明することができる。
14	学習のまとめ 振り返り	今までの授業について振り返り、レポートを書き、内容を検討して、説明することができる。
15	学習のまとめ	筆記試験。授業の振り返り、自己評価と理解度の確認。これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な成果を説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C1021S◆●046
担当者氏名	金谷 公子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

・子どもは、身近な自然環境や社会環境、人的環境に触れることにより、様々な事柄に好奇心や探求心、疑問などをもつ。本授業では、こうした子どもの思考力の芽生えを大切にし、子どもが環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、保育者が果たすべき役割などについて具体的な実践例、映像を通して考えます。

《授業の到達目標》

- ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「内容」「ねらい」等を理解する。
- ・演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助等を理解する。
- ・保育者自身が、子どもにとっての最も影響力の大きい環境であることを自覚し、望ましい環境を作っていく実践力を身に付ける。

《成績評価の方法》

- 筆記試験（60%）
- 課題への取り組み・レポート等の提出物（20%）
- 授業や演習への参加意欲と態度（20%）
- レポートにはコメントをつけて返却する。

《テキスト》

「保育内容『環境』」共著北大路書房
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「演習保育内容環境」柴崎正行建帛社
 「環境」共著チャイルド社、「保育内容環境」共著ミネルヴァ、「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに
 「事例で学ぶ保育内容環境」無藤隆萌文書林
 「子どもがあそびたくなる草花のある園庭と季節のあそび」フレーベル館

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目とおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。
- ・テキストは資料と並行して活用するため、毎回持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意について理解する。 ・環境の概念について知る。
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」について理解する。 ・子どもに環境とかわる力を育てるという視点から、その方法や内容を考える。
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴について理解する。 ・発達の順序性と連続性について理解する。
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながりについて理解する。 ②子どもと地域社会のつながりについて理解する。
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながりについて理解する。 ④子どもと保育者のつながりについて理解する。
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境を理解する。 ②園内の遊びの環境を理解し、環境にかかわる中で育つものは何かについて考える。
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心についてその意味や育てる要因について考える。 内発的動機づけについてどのような環境のなかで高めることができるのか考える。
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②環境を構成するにあたり、時間・空間という視点から考える。 一日の生活時間の構造について理解する。
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識について考える。 遊びやかかわりの工夫について考える。
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育について考える。 知的発達、創造力の発達について理解する。
11	自然環境と子どものかかわり	・身近な動植物とのかかわりを指導実践事例を紹介しながら具体的に考える。 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	・道徳の概念について理解する。 ・道徳を育む保育について主体的に考え、その保育について説明することができる。
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわりを具体的な実践事例をもとに考える。 ・地域の行事と子どものかかわりを具体的な実践事例をもとに考える。
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境についていかに実践されているのかを実際に調べる。 ・教育の視点から見る安全環境についていかに実践されているのかを実際に調べる。
15	まとめ	・授業の振り返りと理解度を再確認し、環境についての具体的な学びを説明することができる。

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境	科目ナンバリング	C1021S◆●046
担当者氏名	諸富 眞知子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

・子どもは、身近な自然環境や社会環境、人的環境に触れることにより、様々な事柄に好奇心や探求心、疑問などをもつ。本授業では、こうした子どもの思考力の芽生えを大切にし、子どもが環境とどのようにかかわっているのか、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、保育者が果たすべき役割などについて実践例を通して学び取る。

《授業の到達目標》

- ・「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の保育内容「環境」についての「内容」「ねらい」等を理解する。
- ・演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助等を理解する。
- ・保育者自身が、子どもにとっての最も影響力の大きい環境であることを自覚し、望ましい環境を作っていく実践力を身につける。

《成績評価の方法》

- 筆記試験（60%）
- 課題への取り組み・レポート等の提出物（20%）
- 授業や演習への参加意欲と態度（20%）

《テキスト》

「保育内容『環境』」共著北大路書房
 「保育所保育指針」

《参考図書》

「演習保育内容環境」柴崎正行建帛社
 「環境」共著チャイルド社、「保育内容環境」共著ミネルヴァ、「アイデアたっぷり年中行事」ひかりのくに
 「事例で学ぶ保育内容環境」無藤隆萌文書林
 「子どもがあそびたくなる草花のある園庭と季節のあそび」フレーベル館

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲は必ず読み、用語や意味を調べてくる。
- ・配布した資料は必ず目とおし、理解を深める。
- ・指定した課題はレポートを作成し提出をする。

《備考》

- ・皆が気持ちよく受講できるように、受講マナーを守る。
- ・明確な理由のない遅刻や欠席は厳重にチェックをする。
- ・四季折々の自然環境を取り入れるので必要な物を持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・環境の概念
2	保育の基本と保育内容	・保育内容の構造と領域「環境」 ・環境をとおして行う保育
3	乳幼児の発達過程と特徴	・0歳児から5歳児までの発達と特徴 ・発達の順序性と連続性
4	人的環境と子どもの育ち	①子どもと家族のつながり ②子どもと地域社会のつながり
5	人的環境と子どもの育ち	③子どもと友だちのつながり ④子どもと保育者のつながり
6	物的環境と子どもの育ち	①園内の生活環境 ②園内の遊びの環境
7	保育内容「環境」と子どもの理解	①好奇心・探究心の芽ばえ 内発的動機づけ
8	保育内容「環境」と子どもの理解	②時間・空間の概念 一日の生活時間の構造
9	保育内容「環境」と子どもの理解	③数量・図形・文字の認識 遊びやかかわりの工夫
10	保育内容「環境」と子どもの理解	④思考力を育む保育 知的発達、創造力の発達
11	自然環境と子どものかかわり	・身近な動植物とのかかわり 動物・植物・園外の自然・水・土
12	道徳性の芽ばえ	・道徳の概念 ・道徳を育む保育
13	行事と子どもの育ち	・園内行事と子どものかかわり ・地域の行事と子どものかかわり
14	安全環境と教育	・養護の視点から見る安全環境 ・教育の視点から見る安全環境
15	まとめ	筆記試験 授業の振り返りと理解度の確認

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現A	科目ナンバリング	C1021S◆●048
担当者氏名	永井 夕起子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力		

《授業の概要》

身体表現活動が子どもの発育発達にもたらす影響について学ぶ。幼児期に表れる表現の特徴について理解し、子どもにあった表現を使った遊びについて考える。また、自分自身の身体について理解を深め、幅広い表現力を身につける。

《テキスト》

テキストは使用しない。配布したプリントをまとめるファイルを用意すること。

《参考図書》

授業中に随時紹介する。

《授業の到達目標》

- ・自分のイメージや気持ちを動きで表現することができる。
- ・他者の動きを受け入れ、真似したり動きで応答したりして動きを共有することを主体的に楽しもうとする。
- ・基本の動きを発展させ発表することができる。
- ・全身を使った表現作品を創作し発表できる。

《授業時間外学習》

- ・体調管理
- ・日ごろから様々なジャンルの音楽に触れる。
- ・絵本や童話を読み、想像力をつける。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢（45%）、実技テスト（20%）、発表（20%）、提出物（15%）
発表の後、講評を行い自らの達成度を確認する。

《備考》

動きやすい服装で参加すること。シューズ忘れは欠席と同等の減点になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と受講上の注意
2	心と身体の結びつきを感じる	身体部位を認識する動き。身体知覚を刺激する遊び。
3	基本的なリズムステップの理解	基本ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
4	基本的なリズムステップの発展	基本ステップを組み合わせた複合的ステップの名称と動き方を覚えて踊る。
5	基本的なリズムステップの発展②	ステップを組み合わせてひとまとまりの振りを創って踊る。
6	基本ステップのまとめ	基本ステップの体得を確認する。
7	リズム遊び	歌や曲のリズムに合わせて身体を動かす遊びに触れ、動きを発展させる方法を学ぶ。
8	歌を使った表現遊び	歌から全身を使った表現を考える。
9	絵本を使った表現遊び	絵本の言葉に合わせて全身を使った表現を考える。
10	身近な道具を使った表現遊び①	スカーフを使った表現遊びを考える。
11	身近な道具を使った表現遊び②	縄・フラフープを使った表現遊びを考える。
12	影絵遊びとデジタル機器を利用した表現	照明やデジタル機器を使って遊ぶ方法について学ぶ。
13	作品づくり	これまでの表現方法を利用して作品を創作する。
14	作品づくり②	作品の創作。発表会の計画と進行について。
15	発表会	リズムカルに動くこと、作品世界のメッセージ性、効果の使い方など総合的な表現力を確認する。

《学科教育科目》

科目名	社会的養護内容	科目ナンバリング	C1021S-●051
担当者氏名	藤本 政則		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 基教-A コミュニケーション力		

《授業の概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。特に近年深刻化する児童虐待問題に関する内容に重点を置きたい。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考図書》

『新保育士養成講座 第5巻 社会的養護』全国社会福祉協議会

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《授業時間外学習》

毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《成績評価の方法》

1. 授業態度、授業内討論への参加、授業レポート（40%）
 2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価）（60%）
- 授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《備考》

各講義の開始時に出席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家庭や社会の役割	今日の子育て家庭をめぐる現状を理解する。
2	社会的養護を必要とする子どもたち①	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
3	社会的養護を必要とする子どもたち②	子どもが育つ環境としての社会の現状を理解する。
4	児童虐待とは①	児童虐待の定義や実態を学ぶ。
5	児童虐待とは②	児童虐待の発生要因について考える。
6	児童虐待への対応①	児童虐待への対応の全体像を理解する。
7	児童虐待への対応②	児童虐待への対応における初期対応（発見・通告）を理解する。
8	児童虐待への対応③	児童虐待への対応における初期対応（通告・通知）を理解する。
9	児童虐待への対応④	児童虐待への対応における児童相談所の役割（調査・診断）を学ぶ。
10	児童虐待への対応⑤	児童虐待への対応における児童相談所の役割（一時保護・施設入所）を学ぶ。
11	虐待を受けた子どもの特徴	虐待を受けた子どもの心理行動的特徴を理解する。
12	虐待を受けた子どもの施設ケア①	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアのあり方を理解する。
13	虐待を受けた子どもの施設ケア②	児童養護施設等における虐待を受けた子どもへの施設ケアの実際を学ぶ。
14	虐待を受けた子どもの施設ケア③	虐待を受けた子どもの家族再統合の為の支援や社会的自立支援のあり方について理解する。
15	学習のまとめ	これまでの授業の振り返りを行い、社会的養護の課題について考える。

《学科教育科目》

科目名	乳児保育B	科目ナンバリング	C1022S-●053
担当者氏名	鈴木 富美子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 		

《授業の概要》

- 1、乳児保育Aで学んだ理論・知識を基礎に乳児の発達過程を振り返り確認学習をする。
- 2、保育園（所）、乳児院における保育内容を学び、ベビー人形を用い援助技術の実践を学ぶ。
- 3、乳児への直接的援助と間接援助を学ぶため、様々な保育ニーズの事例検討を行い、幅広い援助技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・0～2歳児（3歳中期頃まで）の発達を理解し、適切な援助活動ができるようになる。
- ・事例検討を行い、多様な保育ニーズを知り、幅広い視野を持つことができるようになる。
- ・子どもとおもちゃの関係を理解し、身近な素材を使って発達に応じたおもちゃを作ることができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、課題レポート（20%）、作品・積極性・集中度・調和（20%）
 ※レポート及び作品にはコメントをつけて返却する

《テキスト》

必要に応じ資料配布

《参考図書》

- 「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい
 「乳児保育Ⅰ 演習と講義」金子保著 クオリティケア
 「見直そう子育て 立て直そう生活リズム」エイゼル研究所
 「すくすくハンドブック」神戸市保健福祉局
 「乳児の保育新時代」ひとなる書房
 「乳児の生活と保育」ななみ書房

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定範囲を読んでおく。
- ・配布資料は必ず読み、理解を深める。
- ・課題レポートについては自分の意見が述べられるよう学習をはかる。
- ・製作物は必ず完成させ、作品の提示を行う。

《備考》

- ・皆が気持ちよく学習できるように受講マナーを守る。
- ・身近なおもちゃを製作するので、予定の日には必要なものを持ってくる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	・授業の概要と進め方、履修上の諸注意 ・乳児の概念 ビデオ「赤ちゃんからのメッセージ」
2	乳児保育の概念	・乳児保育の概念とその重要性
3	保育の歴史	・保育所保育と幼稚園教育
4	乳児保育と時代の変化	・時代と共に歩んできた乳児保育について
5	発達の姿と保育援助①	・0歳児の発達過程と特徴（4ヶ月まで） ・0歳児の保育環境
6	発達の姿と特徴①	・ホールディングの意味と方法 ・授乳の仕方、オムツ交換や着衣、応答的關係、離乳
7	発達の姿と保育援助②	・1歳児の発達過程と特徴 ・1歳児の保育環境（赤ちゃんのおもちゃ） 愛着の絆について ビデオ
8	発達の姿と特徴②	・探索活動の理解と援助 自我の芽生えと好奇心 ・感覚的活動から表象的活動へ移行の援助
9	発達の姿と保育援助③	・2歳児（3歳中期頃まで）の発達過程と特徴 ・2歳児の保育環境 自我の芽生えと好奇心
10	保育の計画	・乳児の指導計画
11	家族支援と事例検討	・保護者対応、様々な保育ニーズ・チームワーク
12	発達のつまづきへの対応	・子どもの発達障害へのアプローチやネットワークを考える
13	製作 乳児のおもちゃ①	・手袋シアター「三匹のやぎのガラガラドン」
14	製作 乳児のおもちゃ②	・製作「アンパンマン」
15	授業の振り返りと理解度の確認	・レポートから見る課題

《学科教育科目》

科目名	障害児保育B	科目ナンバリング	C1022S-●055
担当者氏名	足立 法子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル 		

《授業の概要》

本授業の目的は、障害児保育の現状と課題などを踏まえながら障害を理解しようとする心構えと、実践的な技能及び認識を高めることを目指して学習することである。

《テキスト》

※障害児保育Aで使用したテキストを使用

《参考図書》

授業中に適宜案内します。

《授業の到達目標》

本授業では、障害という概念について多角的な理解を行うとともに、行政、地域レベルで行われている障害児の支援の在り方を学習することを通して、いかに行動することが必要であるかを理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

授業中に紹介した文献を読む、障害児に関わる新聞報道に注目するなどして、授業中にとりあげたテーマについて各自で理解を深める努力をしてください。
また、保育所見学やボランティア体験を通して、子どもと接する機会を積極的に行ってください。
まずは、自分の言語表現力を高める努力から始めて下さい。

《成績評価の方法》

15回目を行う試験の評価50%
授業中に実施するレポート課題や発表および授業への取り組みの評価50%
試験終了後、解説を行い、学習理解を深める

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要と進め方、履修上の諸注意
2	障害の概念①障害とは何か	障害とは何か、について理解を深める。 障害児に対する保育・教育の歴史
3	障害の概念②障害とイメージ	「障害」と聞いたときに人が持つイメージから、障害の本質について理解を深める。障害理解教育についても理解を深める。
4	障害の概念③障害と福祉	障害児・者に対する福祉行政の問題から、今後の課題について理解を深める。
5	障害児保育の現状と課題①福祉・保育	障害児をめぐる福祉・教育の現状と課題について理解を深める
6	障害児保育の現状と課題②保健・医療	障害児をめぐる保健・医療の現状と課題について理解を深める
7	障害児保育の現状と課題③専門性	障害児保育と専門性の問題について理解を深める
8	障害児への支援①グループ研究	グループで相談し、グループ研究で取り扱う障害を選び、研究するテーマについての概要をまとめる
9	障害児への支援②グループ研究	自分たちの選んだ障害、テーマについて文献研究を行い、PPTのスライドを作成する
10	障害児への支援③グループ研究	発表のためのアンケートや実践、教材作りなどを行う
11	障害児への支援④グループ研究	アンケートなどの結果をまとめ、考察を行う。また、今後自分たちが身につけるべきこと、課題について考える
12	障害児への支援⑤グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
13	障害児への支援⑥グループ発表	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見を発表する。
14	障害児への支援⑦グループ研究のまとめ	障害に関する問題の中から、グループごとにテーマを選び、文献研究等で得られた知見をレポートにまとめる
15	学習のまとめ	1回目から14回目までの学習内容についての理解度を評価するために試験（60分）を行う。試験の解説（30分）により理解を深める。

《学科教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	C1022S◆○056
担当者氏名	大久保 恵		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル		

《授業の概要》

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育相談現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《テキスト》

「エッセンス 学校教育相談心理学」
石川正一郎・藤井泰編著（北大路書房）

《参考図書》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

1. 子どもの問題行動の裏側にあるその心理や発達の問題を理解することができる。
2. カウンセリングの技法や心理学の基礎的な知識について説明できる。
3. 保育現場で生じる子どもの問題行動に対応できる。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《成績評価の方法》

1. 授業態度（20%）
2. レポート課題等の提出物（20%）
3. 期末試験（60%）

1の授業態度に関しては、授業に関係のない私語は厳禁とし、積極的に参加する姿勢を評価します。

《備考》

- ・講義の開始時に出席を確認します。
- ・授業や心理学に関する質問は、授業中や授業後でも対応します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育相談と自己理解	1. 教育現場とは 2. 授業のオリエンテーション 3. 自己理解のための心理テスト
2	教育相談の実際1	1. 不登校とは 2. その対応
3	教育相談の実際2	1. いじめについて 2. 非行について
4	パーソナリティとその理解1	1. 心の構造 2. 自我の防衛機制について 3. 心の発達
5	パーソナリティとその理解2	1. 教育相談で扱う心の病気とは
6	発達と教育相談	1. 子どもの発達（心理検査を通して）
7	発達障害と教育相談	1. 発達障害とは 2. 広汎性発達障害 3. LD 4. ADHD
8	カウンセリングとは	1. カウンセリングとは 2. カウンセリングマインドについて
9	カウンセリング体験	1. カウンセリングのロールプレイを行います
10	主な心理療法と心理検査	1. 主な心理療法について 2. 心理検査とは
11	描画体験とその理解	1. 描画体験 2. その説明
12	関係機関との連携・協働	1. スクールカウンセラーとは 2. 関係機関との連携について
13	問題行動とその対応	1. 幼児期、児童期、思春期に生じやすい問題行動をあげ、その具体的な対応方法や関係機関との連携の仕方を学んでいく
14	ケーススタディ	1. 具体的な事例を通して、子どもへの理解とその対応を深めていく
15	学習のふり返り	1. 学習の習得度について振り返る（テスト）

《学科教育科目》

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）	科目ナンバリング	C1022S◆●057
担当者氏名	笹田 哲男、福田 規秀、三浦 摩美、未定、石川 恵美、杉田 律子、金谷 公子、小林 孝子、山村 けい子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 ○ 3-2 保育の実践に関する専門的スキル ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 		

《授業の概要》

教育委員会や幼稚園・保育所・認定こども園等から講師を招いての講義及びそれを基にした事例研究やグループ討議、実習の振り返りを行う。また模擬保育等を通して、教員（保育者）として必要な知識・技能を修得したことの確認を行う。

《テキスト》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008
『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 2008
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

○教職課程や保育士養成科目の履修により修得した知識・技能を基に、教員（保育者）としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。
○社会性や対人関係能力を身につけ、幼児理解を深めながら保育内容の指導力を向上させる。
○教員（保育者）の職務を支障なく実践できる資質・能力を獲得する。

《授業時間外学習》

課題に沿ったレポート、指導案の作成、発表（討論での意見模擬保育等）の準備

《成績評価の方法》

課題（討議レポート、指導案等）50%、発表（討論での意見模擬保育等）50%
課題、発表については、講義内で講評を行う。

《備考》

幼稚園教諭免許、保育士資格を取得するための「総仕上げの授業」と心得て、積極的に学修することが望まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	建学の精神と保育科教育目的の再確認をする。
2	講義（1）	保育者としての成長や保育の課題等についての講義（附属幼稚園からの講師）
3	講義からの学び	第2週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育実践に繋げることができる。
4	講義（2）	教職の意義や教員（保育者）の役割、職務内容についての講義（教育委員会からの講師）
5	講義からの学び	第4週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。学んだことを保育者としてのあり方・生き方に繋げることができる。
6	講義（3）	幼児理解や社会性、対人関係能力、保育内容の指導力についての講義（保育現場からの講師）
7	講義からの学び	第6週の講義内容に関する事例研究、グループ討論をする。またロールプレイなどにより学んだことを幼児理解や保育実践に繋げる。
8	模擬保育1	模擬保育のための指導案を作成する。（グループ別）
9	模擬保育2	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
10	模擬保育3	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
11	模擬保育4	模擬保育のための教材研究と指導案の修正をする。（グループ別）
12	模擬保育発表（1）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
13	模擬保育発表（2）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
14	模擬保育発表（3）	模擬保育に取り組むことで、より実践力を身につけることができる。
15	学修のまとめ	今までの学修を振り返り、自己成長感を確認することができる。